

---

# **最後のワザだぞ！**

河 美子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最後のワザだぞ！

### 【Zマーク】

N3281X

### 【作者名】

河 美子

### 【あらすじ】

じんちゃんと仲良しのジyun。

今日は病院に行つたんだ。

(前書き)

リン先生との五枚企画です。

今日は寝る前に少しあくまで読んで聞かせたいお話を。

僕はあらび幼稚園の年長さんだよ。

友だちはじんちゃん。ボクはジュンだよ。

幼稚園のダブル」のいたずらっ子つて先生が言つたよ。

何だか呼び名がカッコいい。

一人で仲良く遊んでるの。

女の子のスカートはパツとめくつちやう。

「きやあ、エツチ」

そう言つけど、みんな喜んでるよ。

でも、園長先生にそれやつたらめちゃくちゃ叱られた。

じんちゃんがやめとけって言つたけど、園長先生のスカートがヒ

ラヒラしていたもん。

ピコッてめくつたら、毛糸のパンツはいてた。

「こりーっ！」

迎えに来たママは園長先生から散々注意されて、ボクのおやつはその日消えた。

そんなある日、じんちゃんが休んだ。

「じんちゃんは喘息でお休みです」

つまんないな。

次の日も次の日も、そのまた次の日も休んだ。

もう、ボクは退屈で死にそうだつた。

土曜日になつて、ママがお腹が痛いから病院に行つた。  
暇なボクもついていつたんだ。

見たよ。

いたよ。

じんちゃんが。

ボクの大好きな友だち。

何だか具合悪そうにじんちゃんのママにもたれてい

ボクはじんちゃんの前に歩いてペースサインをしたよ。  
元気なさそうに手はピースするじんちゃん。

ボクは変顔して見せた。

幼稚園で一番受けれるやつ。  
田は小指で引っ張つて、鼻は親指で持ち上げて、真ん中に田を寄せるんだ。

「コリちゃんなんか泣いて喜ぶよ。

じんちゃんはばべつたりしてこて少し口が笑つただけだつた。  
じんちゃんのママはこう言つたよ。

「ジユンちゃん、お顔が元に戻らなくなつちうわよ

ボクは最後の必殺技を見せた。

ズボンとパンツをおろしてお尻の穴を見せるんだよ。  
これは滅多にやらない技だけど。

「ハハハ、ジユンちゃんのバカ」

そう言いながら笑つたよ。

すると、ママが真っ赤な顔をして走つて来了。  
「ジユンー！」

ボクの頭を持つてた薬の袋でバシッて打つた。

「あなたという子は！」

ママはボクの手を引きずつて家に連れて帰つたんだ。

あまりの剣幕にボクはびっくりしちゃつて、ママの泣いてる姿をじっと見るしかなかつた。

ママは情けないつて言しながら泣いたよ。

この前園長先生に叱られたばかりなのにつて。

そうだった。園長先生のひらひらスカートをめくつちやつたつけ。

すると、パパが帰つてきた。

ママが泣いてるのを見てパパはどうしたんだいとママに聞いたよ。

「ジユンつたら、もう病院でパンツまで脱いで人にお尻を見せてる

の

それを聞いてパパはびっくりした顔でいたけど、噴き出したよ。

「ボクはすごくホツとしたけど、ママは違った。

「パパが甘やかすから変なことばかりするのよ」

パパまで怒られそうになつて、もうボクはどうしていいのか分からなくなつた。

「ママ」

優しく呼んでもママは振り向いてくれない。

パパはその様子を見ながらこう言つた。

「ジユン、じゃパパも明日からパンツをはかずに会社に行こうかな」「えつ？」

「人前で恥ずかしくないんだろ。パパもそうじょり」

幼稚園でどれだけ笑われるだろう。

「ユリちゃんだけでなくみんなにバカにされる。

「ジユンちゃんのパパふりちゃん」って。

「ダメだよ。大人がそんなことしちゃいけないんだよ」「

「子どもも大人も関係ない。パパは明日からネクタイ締めてパンツははかない」

「やだやだ！ そんなのやだ！」

パパはボクを膝に載せてくれた。

「じゃ、どうしてそんなことをしたんだい。悪いと分かつてゐるのに」「

「パパ、パパ、あのね、じんちゃんがずっとお休みしてた」

「ああ、あの仲良しか」

涙が出てきちゃつた。

しゃつくりしてゐみたいにヒックヒック言つよ。

「じん、ちゃん、ひつぐ……が、ひさしひに、ひつぐ、び、病院で、会え……たの」

ママが泣きやんだ。

ボクを見るよ。

パパに話してゐんだけど、ママを見ながら言つたよ。

「げん、ひつぐ、きがなかつた……から、笑わせ、たかつ、たのママがまた泣きだしちゃつた。

「あーん、ママ、泣かないで。もう、しません。『めんなさい』ママがボクをパパの膝から抱きあげてくれた。

「そうだったの」

ママはそう言つと頬ずりしてくれた。

いつもの優しいママだ。

あーん、ボクこんな泣き虫じゃなかつたのに。

今日は泣いてばかり。

ママが耳元で囁いた。

「お兄ちゃんになるんだからじっかりしてね。もうパンツ脱いだりしないのよ」

パパがひやつほーつて叫んだよ。

「えつ、ボク、弟ができるの？ 妹？」

「あ、どっちかな」

ボク、もうお尻は見せません。

でも、じんちゃんが笑つぽどの技なのになあ。

残念だなあ。

(後書き)

童話です。

と思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3281x/>

---

最後のワザだぞ！

2011年10月24日13時09分発行